

有明ベイサイドエリアを もっと好きになるSTORY

～愛野町・吾妻町・瑞穂町の価値を来訪者と共有するために～



この冊子は、 有明ベイサイドエリアの魅力を広く理解し 発信するためのひとつの計画書です

愛野町・吾妻町・瑞穂町
三つのまちの誇りを再確認

広大な有明海沿いに愛野町(あいのまち)、吾妻町(あづまちょう)、瑞穂町(みずほちょう)の3つの町が連なっています。島原半島は約50万年前に雲仙火山によって形成された半島です。その入口に位置する愛野町には「関所」の歴史と「干拓」の偉業が残り、特産物では初夏と秋にじゃがいもが収穫されています。吾妻町には火山の恵みを受けた肥沃な大地が広がり、牛や豚など畜産が盛んに行われ、じゃがいも畑やブロッコリー、伝統野菜の「雲仙こぶ高菜」に至るまで多くの特産物が育まれています。瑞穂町は火山によって研ぎ澄まされた大いなる川と米の恵みが今に続き、その豊作を願い感謝する祭りが多く存在しています。その川は有明海へと続き、山からのミネラルを取り込んだ「瑞穂牡蠣」が育まれ、土地の豊かさによって生かされていることが分かります。

このように、それぞれのまちが持つ「誇り」を地元の皆様が確認し、ともに発信していくために作成したものが、本誌「雲仙市有明ベイサイドエリアインタープリテーション全体計画書」です。

有明ベイエリアの
ストーリーを明確化

本計画は、令和7(2025)年6月から令和8(2026)年1月まで6回にわたって行われた、雲仙観光局主催「有明ベイサイドエリアインタープリテーション全体計画策定WG」の参加者によって制作が進められました。

この計画によって、他の地域にはない「有明ベイサイドエリアならではの魅力的なストーリー」を明確化し、地域のブランディングやコンテンツを強化し、愛野町、吾妻町、瑞穂町の自然環境と歴史文化の保全・継承を効果的・効率的に行うと同時に、観光的な価値を高め、住民と来訪者両者へのサービス向上に資することを目的としています。

みんなで作り
みんなでおおう！

本書は、来訪者をお迎えする「すべての関係者」に向けて、愛野町、吾妻町、瑞穂町の3つのまちの価値と誇りを整理しています。

「すべての関係者」とは、宿泊施設や飲食店、土産店など観光に関係する施設で働くスタッフの方々はもちろん、住民の皆様、そして地域の皆様のバックアップし、地域全体の観光マネジメント&プロデュース、情報発信などを行う行政や観光局職員など、あらゆる場面で直接的、または間接的に来訪者に関わるすべての方々を指します。

さまざまなカタチで産業や観光、地域づくりに携わる地域プレイヤーの皆様にも、本冊子をご活用いただければと思います。

雲仙市地図



雲仙市のインタープリテーション全体計画書は、
4つのエリアに分けて制作しています。(今後も更新予定)

1



雲仙温泉地区 雲仙を
もっと好きになるSTORY
(令和4年度に制作)

2



雲仙市国見エリアを
もっと好きになるSTORY
(令和5年度に制作)

3



橘サンセットエリアを
もっと好きになるSTORY
(令和6年度に制作)

4



有明ベイサイドエリアを
もっと好きになるSTORY
(令和7年度に制作)

目次

| | | |
|----------|--|----------------------|
| 1 | まえがき | |
| 2 | 雲仙市地図 | |
| 3 | 目次 | |
| 4 | そもそもインタープリテーションとは何ですか？ | |
| 5 | 誰でも担える8つの活用イメージ | |
| 7 | 有明ベイサイドエリアの価値とその構造 | |
| 8 | ● 大テーマ 大地と泉水海に生きる | |
| 11 | ● 中テーマ ① 干拓で未来をつくった偉人たち | |
| 15 | ● 中テーマ ② 山海の幸を育む水の旅 | |
| 17 | ● 中テーマ ③ 五穀豊穰を願う心の風習 | |
| | | |
| ● 愛野町の誇り | 20～ | 21 ① 島原半島の玄関口「関所」 |
| | | 23 ② 愛野のじゃがいもとその風景 |
| | | 24 ③ おいしい愛野町 |
| | | 25 ④ 自慢のスポット |
| | | 26 ⑤ 愛野町の豆知識 |
| | | |
| ● 吾妻町の誇り | 28～ | 29 ① 古墳に見る肥沃な大地 |
| | | 31 ② 人の手と想いがつないだ伝統野菜 |
| | | 33 ③ おいしい吾妻町 |
| | | 35 ④ 自慢のスポット |
| | | 35 ⑤ 吾妻町の豆知識 |
| | | |
| ● 瑞穂町の誇り | 36～ | 37 ① 西郷川の源流 岩戸神社 |
| | | 39 ② 大地に根差した農産物・海産物 |
| | | 40 ③ おいしい瑞穂町 |
| | | 41 ④ 自慢のスポット |
| | | 42 ⑤ 瑞穂町の豆知識 |
| | | |
| 43 | あったらいいな体験&イベント | |
| 43 | 有明ベイサイドエリア(愛野町・吾妻町・瑞穂町)のインタープリテーション・メディア・プログラム | |
| 45 | 観光向けデータで見る雲仙市 | |
| 47 | 索引 | |
| 49 | あとがき | |
| 50 | 有明ベイサイドエリアインタープリテーション全体計画策定WG 参加者名簿 | |
| 51 | 奥付 | |



そもそも インタープリテーションとは 何ですか？



>> インタープリテーションとは？

「インタープリテーション」とは、国立公園や世界遺産、観光地などにおいて、地域の魅力や価値を、来訪者と共有するためのコミュニケーション方法です。また、この冊子では、有明海沿いに広がる自然環境や風景、文化財などが持つ固有の価値やストーリーを共有し、来訪者と地域を結びつける活動を指します。このように、来訪者との何気ない会話やさまざまな場面で、一貫したストーリーを伝える人をインタープリターと呼びます。これは、自然の保全や観光の振興にも重要な役割を果たすものとして注目されています。

次のページでは、活用イメージを
8つのパターンで解説します。

誰でも担える8つの活用イメージ

■人によるインタープリテーション

1

ガイドで



ガイド・インタープリター

ガイドツアーや体験プログラムなどを通じて、来訪者に有明ベイサイドエリアならではの価値をお伝えし、記憶に残るような体験を楽しんでいただくコミュニケーションツールとして活用することができます。また資源の大切さを来訪者にお伝えするなど、環境保全や継承のためにも役立てることができます。

2

宿泊施設で



日々、直接来訪者と接するスタッフ

来訪者から受ける質問への回答や、接客での何気ない会話の中で、有明ベイサイドエリアらしさ（価値）や、この町ならではの体験をお伝えし、ここに来なければ得ることができない感動を持ち帰っていただく「案内の手段」として利用することができます。

3

料理店で



料理人・生産者

農業や漁業で獲れた製品の販売をはじめ、収穫体験、また豊かな地元素材を使った料理や店のしつらえを通じて、来訪者に有明ベイサイドエリアならではの食や体験を楽しんでいただき、食への感動を持ち帰ってもらえます。資源の保全や伝統の継承に取り組む際にも、この計画を活用することができます。

4

学校教育で



教育関係者

教育現場での授業を通じて、有明ベイサイドエリアにいないと得ることができない感動や、自慢できる土地の魅力を子どもたちに再認識してもらうために活用いただけます。たとえば学校のインタープリテーション全体計画書を制作することで、学校と地域のつながりをはじめ資源の保全や文化の継承に責任を持って取り組むきっかけとなります。

■自発的なインタープリテーション

5

お土産開発で



デザイナー・制作会社

デザイナーや制作会社、お土産店などの方は、地域の特徴を活かした味やテーマ性を持った商品開発にも役立てることができます。地元の歴史や文化などを加味し、より魅力的なお土産づくりに役立ちます。

6

売り場 づくりで



店舗経営者・従業員

店舗の売り場づくりにおいても、その土地の魅力と価値が伝わりやすい並べ方やデザインが求められます。来訪者に手に取ってもらえる売り場とはどんな売り場なのか。そのヒントになります。

7

SNS発信で



ネット発信の活用

近頃はネットでの情報発信が大きな効果を生んでいます。身の回りで自慢したいことや、ぜひ知ってもらいたい情報を発信することで、遠方の人々にも土地の魅力とストーリーを伝えることができます。

8

旅行会社との 商談で



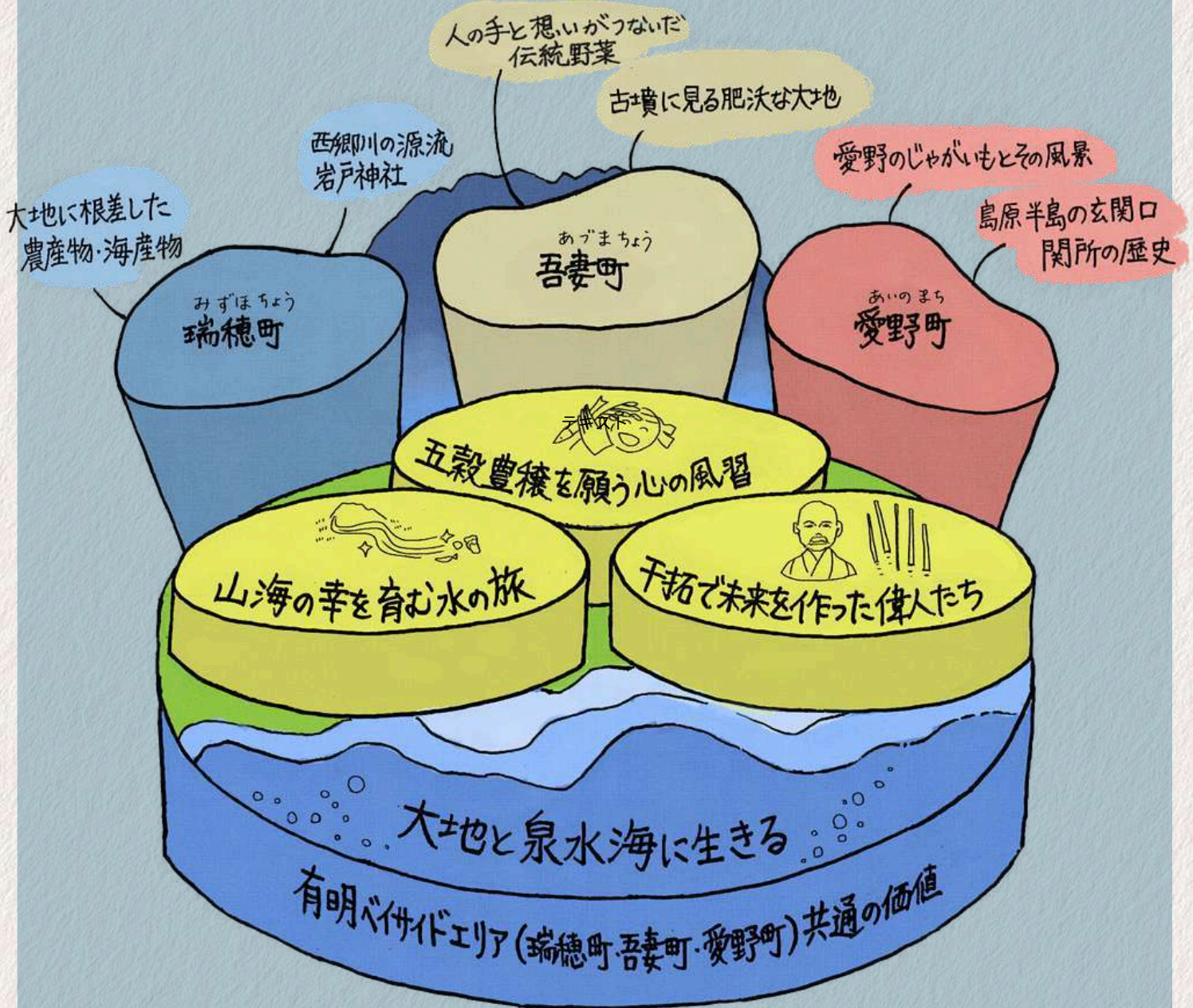
行政・観光局をはじめ、 各事業のプロデューサー

地域全体の方向性を検討する際に、来訪者に向けた有明ベイサイドエリアならではの価値や情報を整理・共有した本計画を参照ください。地域の魅力を引き出し、その持続に寄与するツアーを造成することにより、来訪者へのより良い紹介・商談等に役立てることができます。

誰でも担える、
自分らしいインター
プリテーションを！

本計画はもちろん大切ですが、そこに地域関係者それぞれの「自分らしさ」や、「事業者らしさ(売り・得意なこと)」を掛け算することで、あたかもひとつの楽譜(=インタープリテーション全体計画)を様々な楽器(=個人、個々の事業者)によって奏でる「オーケストラのハーモニー」が生まれます。地域の魅力・価値・誇りをより立体的に表現するためにも、ぜひ自分らしさを掛け合わせて、本計画を役立ててください。

有明ベイサイドエリアの価値と その構造



The Value and Structure of the Ariake Bayside Area

大地と 泉水海に 生きる



諫早湾の別称「泉水海」

有明海の西岸に広がる諫早湾は、かつて「泉水海（せんすいかい）」と呼ばれていました。この名称に対して詳しい解説書を見つけることはできませんでしたが、豊かで神秘的な水辺の景観を指した名称ではないでしょうか。

約30万年前に形成された豊かな大地

約30万年という長い年月をかけて形づくられた大地から、諫早湾には諫早市の本明川をはじめ吾妻町の山田川、瑞穂町の西郷川などいくつもの河川が流れ込み、上流域の山々から運ばれる栄養分が干潟に蓄えられます。火山活動や浸食、堆積を繰り返しながら形成された山と川の地形がゆるやかに諫早湾沿いへと広がり、現在の豊かな平野と水辺の環境を支えています。

有明海の自然のリズムを読み解いた暮らし

有明海の干満の差は最大で6メートルにも及び、潮が引けば広大な干潟が姿を現し、満ちれば再び海となる——そのダイナミックな変化こそが、有明海の生命力の源です。古くから人々はこの自然のリズムを読み取り、様々な漁業や農業が営まれてきました。とりわけ諫早湾の干潟は多様な生きものの宝庫として知られ、アサリやタイラギ、ムツゴロウなど有明海を代表する生物が育ち、海とともに生きる人々の暮らしを支えていました。

諫早湾周辺地図

約30万年という悠久の時間が刻んだ山と川の大地、その先に広がる干潟と海、そして水とともに歩んできた人々の営み。そのすべてが重なり合い、今があります。有明ベイサイドエリアには、海と水、大地によって育まれた多くの物語に満ちています。

諫早市

諫早湾干拓堤防道路

諫早湾干拓事業により整備された潮受堤防道路。全長約7キロメートル。1997年に完成。

山田干拓

諫早湾に突き出すように吾妻町の「山田干拓」が広がっているのがよく分かります。吾妻町出身の大崎連が始めた「三ツ島干拓事業」の場所です。三ツ島とは、海上に沖ノ島・中ノ島・大嶋の3つの島があったことから名づけられたようです。現在は田畑が広がるこの場所を、地元の人は「新開（しんかい）」と呼び親しんでいます。

雲仙市

泉水海

有明海の西岸に広がる諫早湾は、かつて「泉水海（せんすいかい）」と呼ばれていました。この名の由来は正確には分かりませんが、瑞穂町の大正小学校では「仙水湾」という名が校歌に使われています。

【雲仙市立大正小学校校歌 一部】

ああ大正の その文字は
おおき正義を 語るなり
仙水湾の 碧水を
心の鏡と われ等せん

諫早湾
(泉水海)

干拓で 未来をつくった 偉人たち



干拓のはじまり

有明海と諫早湾沿岸には、雲仙岳をはじめ対岸の多良山系、そして阿蘇山の山々から長い年月をかけて流れ出した火山灰や土砂が堆積し、広大な干潟が形成されてきました。潮の干満差が大きい有明海は、豊かな漁場であると同時に、新たな大地を生み出す可能性を秘めた海でもありました。人々は500年も前から、この干潟を穀倉地帯へと変えるため、幾度となく干拓事業に挑んできました。

愛野町には、江戸時代からの干拓地が存在



船着場があった愛津

愛野町(旧愛津村)は江戸時代から少しずつ干拓が始まりました。愛野町に住む方にお話を聞けば、大昔の愛野(愛津)あたりは深い入り江が広がっていて、大潮の時にだけ、船着場である三軒茶屋(現在の日吉神社のそば)に船が入り荷物の積み下ろしをしていた時代があったそうです。

関新田(せきしんでん)と 小牟田下新田(こむたしたしんでん)

もともと入り江が多く平地が少なかったため、生きるために農作地を広げようと、1750年頃に今の日吉神社あたりから「関新田干拓」が進められます。これが愛津村としては最初の干拓地です。また1819年、愛津村庄屋深浦家に伊能忠敬が宿泊し測量。その時に作成した日本地図には、すでに「小牟田下新田」も記載されており、江戸時代終期には、これらの干拓がかなり進んでいました。また「温泉神社」の前あたりは「宮ノ下新田」とも言われ、「小牟田新田」「宮ノ下新田」を合わせて「愛津新田」と呼ぶのかもしれないと地元の方がお話をされました。

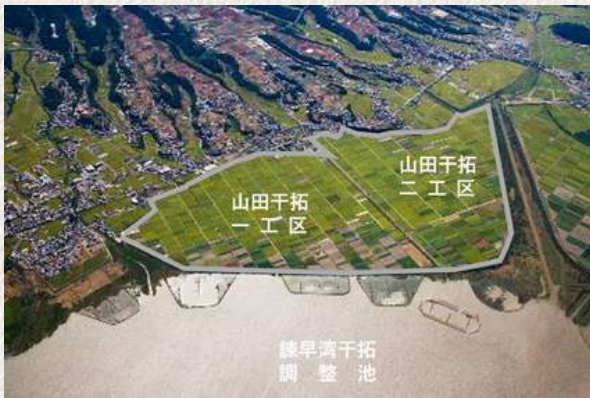
干拓地は有明海沿いへと北上

「小牟田下新田」が完成した後、1826年から光西寺前～愛野駅あたりの古新田・新新田・沖新田(愛のハタ揚げ大会が行われている場所)、さらに阿母崎新田と、中心部から有明海側へと干拓地が広がっていきます。「愛のまち夢未来センター」の裏には大きな段差があったそうですが、それも埋め立てられ、現在のような平らな土地になったようです。また国道251号や57号にあたる道路の一部は昔の堤防跡。そして明治時代になると、大崎連らによる大規模な「三ツ島干拓事業(第一工区・第二工区)」が行われていきました。

▼旧愛津村庄屋深浦家跡の前から見た、愛野町の中でも古い「関新田」。



明治時代にはじまった「三ツ島干拓事業」



ただひたすらに
村民の幸福を祈って
干拓事業を完成させた
大崎連に感謝する
民謡も生まれました

♪山田ン 大崎さんは
才子こちゃ 才子よね
二百と六十町の
ヨイシヨ
新田きづくよね

32歳という若さで、山田村の初代村長になった大崎連は、村民の安定した生活を願い、農地拡大の計画を進めていました。明治26年に300町歩の干拓県令を受けて、三ツ島干拓の大事業に着手します。しかし土地の軟弱は想像以上だったようで、工事はスムーズには進みませんでした。三ツ島から石材を船で運び堤防をつくることからスタートしましたが、築堤が高潮の襲来で崩れたり、復旧してもまた暴風雨で容赦なく被害を受けるなど、難工事がつづきます。血のにじむような努力のあと、大正5年に悲願の第一工区(東側)が完成します。しかし、大崎家の資金は使い果たされ、親類縁者も資産を失うほどだったそうです。

西側の第二工区は、佐賀県の弥富寛一が埋立権を取得し、大正15年に着工しています。この工事も潮止堤防にかなり苦労しましたが、昭和5年にやっと完成しました。

大崎連と弥富寛一が遺した山田干拓は県下有数の米の生産地となり、人々の暮らしに潤いをもたらしました。山田干拓は「新開(しんかい)」と呼ばれ、今も豊かな田園風景が広がっています。

おおさきむらじ

大崎連翁之碑



第一工区の入口にあたる牛口地区に「大崎連翁之碑」の碑が立っています。これは、当地で干拓事業に大きな功績を残した大崎連翁の偉業を称え、昭和25年に建てられました。

第二工区の一部には、この土地を担当した佐賀県出身の弥富寛一翁の碑が立っています。

いやどみかんいち

弥富寛一翁之碑



祖父である大崎連を回想

大崎連を祖父に持つ、吾妻町在住の大崎明海(あけみ)さんから、お話をお聞きました。



祖父は、山田村の48代目庄屋・林田家の次男として安政5年に生まれ、17歳のときに大地主で富豪だった大崎家の養子になっています。若い時から人格と力量があったようで、29歳で3代目の戸長に選ばれ、32歳で山田村の初代村長になっています。祖父は2人の妻を迎えていて、後妻のムイさんのことは覚えています。私の父は連の9番目の子どもで「九郎」と名付けられました。父は戦争に関心がなく、第二次世界大戦中は、親類をたよってインドで暮らしていたようです。戦後、吾妻町に戻って結婚し、私が誕生します。昭和25年の「大崎連翁之碑」建立式で撮った写真があり、母に抱かれた1歳ぐらいの私が映っています。子どもの頃は、山田新開のそばに広がる有明海でよく泳いでいました。私の名前は有明海にちなんで名づけられているんですよ。

祖父は晩年、この山田新開を朝夕2回散歩することが日課だったようです。今、私もまさにこの干拓地のそばに住み、周囲を散歩することが日課になっています。近年まで、地元の方が「あんたんとこのおじいさんが、この土地をつくってくれたけん、米に困らんで生活できとるとよ」と言って、毎年もち米を持ってきてくれる方がいらっしました。祖父の偉業に敬意を払い、自分が生きている間は、記念碑の周囲や干拓地を大切に见守り続けたいと思っています。



干拓工事の様子

沖合に船が浮かんでいることから、堤防を築いている様子と思われます。はっきりとした年代は不明ですが、写真として残された貴重な記録です。必要な石材は三ツ島から調達しているため、一つの島が無くなったといわれています。

写真提供：大崎明海氏



山田干拓(通称：新開)は、もともと海だった場所から実りの田畑へと姿を変えていきました。今の豊かな暮らしがあるのは、自然と真正面から向き合い、未来を信じて挑み続けた先人の情熱によって支えられています。

山海の 幸を育む 水の旅



清流がもたらす美しい棚田

30万年という長い年月を経て川によって削られてきた山の裾野には、階段状の谷が形成され豊かな棚田が広がっていきます。川沿いごとに集落や神社があり、昔から稲作や畑を耕しながら暮らしが営まれてきました。特に稲作と暮らしのつながりは深く、季節ごとに行われる田植えの後の「さなぶり」や「作願立て」など、その風習は代々伝えられ、この土地に敬意を払う心に満ちています。

山から海へつづく恵み

米の恵みをもたらす川は、さらに下ると、放牧牛や家畜豚など畜産農家の産業を潤し、ミネラルを多く含んだ「水」は海へと流れていきます。多くのプランクトンを育くむ有明海では、アサリや牡蠣、ワタリガニなど海の幸をもたらし、ここに暮らす人々の営みを支えています。

愛野町の水の旅



雲仙岳の伏流水



「あい娘酒造」のお酒



清らかな雲仙の伏流水を使った地元の銘酒が愛野町で造られています。その名も純米大吟醸「愛」。また「娘を愛でるように育む」という酒造りの姿勢から「あい娘酒造」の名前が付けられています。

吾妻町の水の旅



吾妻岳



山田川



川床地区のお米



吾妻岳に源流を持つ山田川は二級河川として吾妻町を代表する川になっています。上流域には棚田が広がり、川床地区の棚田は地域で共同で守られており、美味しいお米が実ります。中流域には野菜などの耕作地があり、河口である有明海へと流れていきます。

瑞穂町の水の旅

瑞穂町を代表する西郷川。美しい石垣の棚田が川沿いに広がっています。西郷川の清水を利用したお米は「岩戸米(いわどまい)」と「西郷米(さいごうまい)」と呼ばれ、いずれも質が高く甘さや粘りがあり、とてもおいしいと評判です。収穫が終わった後の稲を使い、瑞穂町岩戸地区では、岩戸神社へ奉納する注連縄(しめなわ)が作られています。



西郷川の源流



山の恵み



海の恵み

12月、西郷川の河口では雲仙市のブランドカキ「瑞穂牡蠣」が水揚げされています。養殖のアサリ「春待ちアサリ」も春の風物詩です。

五穀豊穰を願う 心の風習



日々の感謝を人々と分かち合う

有明海に面した肥沃な平野部と、雲仙岳の裾野に広がる山筋。その山筋ごとに集落があり、第一次産業が盛んに行われてきました。田植えや収穫、祭りの準備などを一致団結して行う共同作業（もやい）の習慣や、農休日という日々の共同の休日もありました。そして山筋ごとや集落ごとに伝統文化と行事が継承されています。これがさらなる人々の団結を生み、現在も様々な新しいマルシェや芸術の創出が続いています。

毎年、豊作を願う文化や風習が今も営まれている



相撲（子ども相撲、雲仙出身の行司） 10月18日（伊福） 8月末～9月上旬（西郷）

農業が盛んな有明ベイサイドエリアでは、古くから相撲文化が根付いています。瑞穂町の西郷地区や伊福地区では、子ども会相撲大会が開催され、例年大盛り上がり。また、現在行司として活躍している木村光之助さんは吾妻町出身です。



ハタ揚げ（愛野町）3～4月

ハタとは凧の一種で、長崎ではこの名で親しまれています。3～4月の農休日には地域で集まりハタ揚げを楽しんでいました。昔は材料に蚕座紙(さんざし)、革をなめした弓、竹などを使用していました。愛のまち剣舞箏(けんぼうそう)保存会は愛野町内の小学校でハタ作りの指導をしています。

※P30で詳しく紹介しています



ずいほうだいこ 瑞宝太鼓

1987年、知的障がい者のサークルとして発足し、2001年プロ集団に。週に1回の練習を続けながら、各地のイベント出演や障がい者福祉向上のための社会貢献活動を行っています。「希望・努力・感謝」がテーマ。



ふりゅう 浮立（愛野町、吾妻町）10月15日

島原半島では五穀豊穡や雨乞いを祈願し、各所で浮立が奉納されます。愛野町では、氏子に担がれた御神体が御旅所に鎮座する2日間、野井浮立や愛津浮立を披露。吾妻町では6年一度、土手浮立があります。



とんぐうさい 屯宮祭 10月16日から18日

五穀豊穡を願い、瑞穂町の伊福八幡神社で行われる祭り。全国の神様が出雲に集まり、地域を留守にしてしまう神祭月に、選ばれし6人が神様の“代役”を努めます。人間神様は祭りの間、神社に寝泊まりして神事に参加します。



みずほ夏まつり 8月15日

みずほすこやかランドふれあい広場にて開催。露店が立ち並び、歌謡ショーやお楽しみ抽選会、打ち上げ花火などが行われ、たくさんの人で賑わいます。



吾妻町夏祭り 8月16日

雲仙市役所吾妻庁舎駐車場で開催されるイベント。夕方から模擬店やステージイベントが始まり、21時すぎに打ち上げられる花火が最大の目玉となっています。



ふれ愛夏の夏まつり 8月下旬

愛野町運動公園芝生広場で開催。ステージイベントのほかスイカ早食い競争、餅まきなどが行われ、夜には花火が夜空を彩ります。

アヅマルシェ 年内に複数回開催

おいしい食べ物やハンドメイド雑貨が集まるマルシェ。雲仙市役所駐車場で開催。ダンスやファッションショーといったステージイベントも開催され、家族連れなど多くの人が集まります。



雲仙アヅマクロス

十字にクロスしたネットを使い、4チーム計8人で対戦するローカルスポーツ。シャトルコックをテニスラケットで打ち返します。正面だけでなく、左右にも相手がいるところに難しさがあり、幅広い年代で楽しめます。



岩戸こもれびコンサート 10月~11月

岩戸神社境内で開かれる野外コンサート。巨大な岸壁や森林に囲まれた神秘的な雰囲気の中、プロの演奏家による生演奏を聴くことができます。音や自然に包み込まれるような体験ができるとあって、毎年大人気。



雲仙市産業まつり~特産まんぞく市~

JA全農ながさき県南家畜市場にて毎年12月に開催。「雲仙ブランド認定品」をはじめとする多くの特産品が勢ぞろいする特産品マルシェは、試食の振る舞いや詰め放題が実施されることも。橘湾のお魚つかみ取り、ちくわ焼き体験、eスポーツ体験など、参加型のイベントが目白押しです。





旧町時代の町章

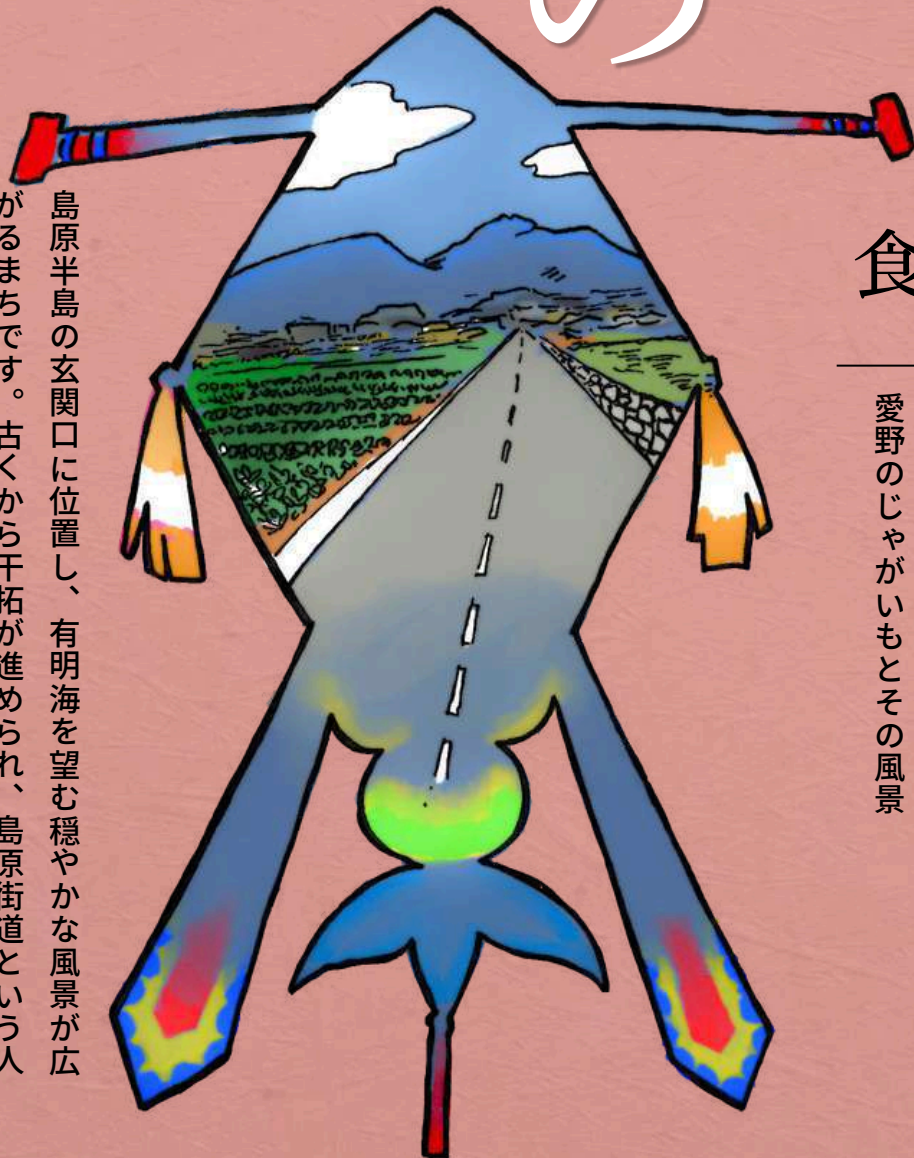
誇り 愛野町の

歴史

島原半島の陸の玄関口「関所」

食

愛野のじゃがいもとその風景



島原半島の玄関口に位置し、有明海を望む穏やかな風景が広がるまちです。古くから干拓が進められ、島原街道という人と文化が行き交う重要な交通の要所でした。肥沃な大地ではじゃがいもや玉ねぎなどの農産物が豊かに実ります。

島原半島の 陸の玄関口 「関所」



イメージ図

愛野（旧愛津）と江戸期の関所の歴史

愛津村（現在の愛野町）は島原半島の北西端にあり、有明海側から半島内へ向かう交通の要地として、古くから往来が盛んな地域でした。江戸時代にはこの地を通る島原街道（北目道）が長崎・諫早方面と島原方面を結ぶ主要路であり、半島への「玄関口」として重要な役割を果たしてきました。そうした地理的条件から、愛野には関所（番所）の機能を持つ施設が設けられていました。その代表的な史跡が「土居口番所跡（どいくちばんしょあと）」と「原口番所跡」です。この両番所を結ぶ約1.3kmには竹矢来（たけやらい）が作られ、勝手に出入りができないようになっていました。また、島原街道筋・肥前佐賀藩諫早領との境界にあったため、江戸期に街道を通行する人や物資の出入りを監視し、管理や治安維持（主にキリシタンの取締り）も行っていました。現在も、関所跡周辺に当時の街道遺構や藩境石などを見ることができます。

島原街道(北目道)

しまばらかいどう
(きためみち)

島原街道(北目道)は、島原半島を一周する街道のうち、島原城大手門から半島の北側を反時計回りに半周して愛野(日吉神社)へ至る道です。島原藩主の参勤交代では、諫早で長崎街道と合流し江戸へ向かう道となっていたため「殿様道」とも呼ばれていました。

日吉神社の先右手に「土居口番所跡」の石碑が立っています。島原藩の関所が置かれていた場所で、現在はその石碑だけが存在を残しています。



日吉神社 ひよしじんじや

本土から島原街道の玄関口にあるのが、愛野町の日吉神社です。ここが島原半島の入り口であり、島原街道の入り口になっています。

日吉神社は小高いところに社殿があり、その奥に巨石が林立しています。ここは約千年前の淳和天皇の御代、近江国(滋賀県)坂本の山王日吉神社から御分神され、温泉山満明寺の守護神として創建されたと伝わります。島原藩主は参勤交代の折、必ず駕籠を留められてこの神社に参拝し、長い道中のご加護を祈られたそうです。地元では神社名を「日吉(ひえ)神社」と呼ぶ人もいます。また日吉神社のそばには茶屋が三軒あったことから、「三軒茶屋」とも呼ばれています。



土居口番所跡と原口藩所跡

どいくちばんしょあと はらくちばんしょあと

日吉神社から愛野町内へと進む途中の右手に「土居口番所跡」の石碑が立ち、ここから橘湾方面側に「原口番所跡」の石碑があります。この2ヶ所に島原藩の関所が置かれ、島原藩領への出入りが厳しく監視されていました。

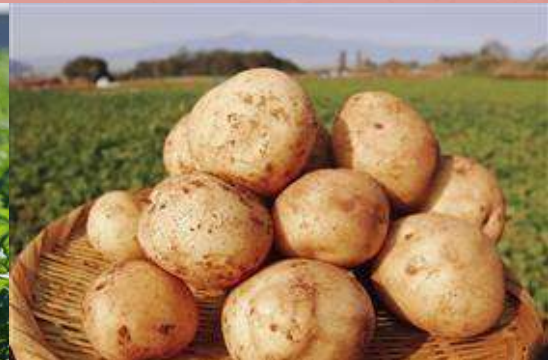


旧愛津村庄屋深浦家跡

きゅうあいつむらしょうやふかうらけあと

江戸期、愛津村の行政的中心・代表的な有力農家として、庄屋(村役人)を務めた家が「深浦家」です。村民の年貢・法令の伝達、キリシタンの取締りに関して「絵踏み」なども行っていました。坂本龍馬と勝海舟がここに宿泊したと伝わる場所です。現在は、当時の面影を残す立派な石垣・庭園跡などが一部残されています。

愛野の じゃがいもと その風景



春と秋の二期作で収穫される 愛野町のじゃがいも

雲仙市はじゃがいもの市町村別産出額が日本一。その中でも特に春と秋に収穫される愛野町はじゃがいもの生産地です。雲仙のような暖地でじゃがいもが採れるようになったのは、“暖地じゃがいも育ての親”と呼ばれる宮本健太郎技師の貢献によるものです。昭和19年に中国農試でスタートした暖地向けのじゃがいもの品種改良は、昭和25年に新設された長崎県農業試験場愛野試験地（現・農林技術開発センター）に引き継がれました。宮本技師らの手により改良と新品種の開発が進み、これまでに味や収量性に優れた“ニシユタカ”“デジマ”などの多くの品種が誕生。現在は“愛の小町”と呼ばれる、愛野町ならではのブランドじゃがいももあります。

国道251号周辺には橘湾をバックに広大な畑が広がり、赤土と石積が独特の景観を作っています。じゃがいも畑のそばにある試験場構内では、地元農家の手によって建立された宮本技師の顕彰碑も目にする事ができるでしょう。遠くからも目を引くその大きさに、宮本技師に対する農家の人たちの尽きせぬ感謝と尊敬の念を感じずにはられません。

おいしい 愛野町

ぎゅうか 焼肉牛花

奥野牧場直営の焼肉店。牧場から直送される新鮮な黒毛和牛が味わえます。敷地内には雲仙ジオバーガーのショップもあり、雲仙牛100%のパテに厚切りカルビが入った「圧倒的肉バーガー」が大きな話題に。



雲仙きのこ本舗

エノキやエリンギなど5種類のきのこを栽培。国産小麦粉や自社栽培きのこを使った即席にゅうめん「養々麺」は体に優しく、本格的な味わい。直営店「雲か山か」では養々麺が食せる他、きのこのもぎ取り体験も。



たいようらん 太陽卵

自然由来の安全飼料で育った太陽卵は、おいしさだけでなく栄養面でも高く評価されています。ビタミンEの含有量は通常の卵の約10倍、ビタミンAも約1.6倍。味も黄身の色もとても濃いブランド卵です。雲仙地獄工房の温泉蒸し玉子もこちらを使用しています。



長崎カステラランド

和泉屋が手がける、カステラの製造工場、店舗、レストランを備えた観光施設。豊富な種類とサイズのカステラを取り揃えています。カステラの工場見学も可能で、レストランでは長崎名物のちゃんぽんなどが味わえます。



愛野町 自慢のスポット



愛野駅

教会風の赤い三角屋根が目印の駅で、日本ロマンチスト協会から“愛の聖地”に認定されています。隣の吾妻駅と並べると「愛しのわが妻」となり、「愛の聖地・最愛認定証」の片道切符がカップルや夫婦の間で人気です。



愛野展望所

眼下に橘湾、遠くに雲仙岳をはじめとする雄大な山々が広がり、雲仙の美しい自然が堪能できます。昭和天皇が3度訪れたことがある景勝地で、「天皇陛下御展望の地」の立札が。夜は一面に輝く星空に圧倒されます。



ひまわり畑

じゃがいもの耕作時期の合間である7月ごろに見られるひまわり畑。肥料用に植えられていて、土をふかふかにし、土壌環境を整える作用が。景観美化にも一役買っており、今では映えスポットとしても人気。



鼻穿石（はなぐりいし）

愛野町田端自治会区域にある、牛の鼻の形に似た石碑。“この場所が海だった時に小船を繋いでいた”とか、“戦前、農作業中に牛や馬を繋いでいた”ともいわれます。

町内には商工会議所の人たちが “愛”をテーマにして建てた 4つのモニュメント“愛の像”

長崎県雲仙市愛野町は、「ロマンチストの聖地」と呼ばれています。

この白亜の像は、名前を「愛の像」といい、平成6年に愛野町商工会の手によって建立されました。台座の側面には、「天心の 月より白き 愛の像」と刻まれてあります。街中に4つ設置されています。



愛野町の豆知識

〈愛野駅と鉄道について〉

「愛野駅」は島原半島にとって島原鉄道の始発駅にあたります。1911年に植木元太郎や地元の有志らが諫早と島原を結ぶ交通網として、国鉄から譲り受けた“1号機関車”を走らせたのが始まり。「愛野駅」は当時「愛野村駅」として開業しました。1923年には愛野村―千々石を結ぶ温泉軽便鉄道（翌年に温泉鉄道に社名変更）も乗り入れを開始し、接続駅として活躍。温泉鉄道は1927年に小浜鉄道と合併し、路線を愛野村―肥前小浜間へと延ばします。しかし業績が振るわず、1933年に鉄道敷設免許を雲仙鉄道に譲渡し、温泉鉄道は解散。路線は引き継がれましたが、その後も経営が好転することなく、1938年に愛野村―肥前小浜間は廃止になりました。愛野村駅は1960年に現在の愛野駅へと改称。1986年に駅舎が新装され、現在の三角屋根のメルヘンチックな姿になりました。現在、「愛の聖地」として観光・地域振興を担うと共に、地元の通勤・通学のローカル線駅として重要な役割を果たしています。

旧温泉軽便鉄道（旧小浜鉄道）
愛野村駅跡と愛津駅跡

愛野から千々石間にわずか10数年だけ稼働していた旧温泉軽便鉄道。昭和13年に廃線になった足跡は各所に残されています。愛野村駅跡（愛野駅内）には記念碑となる駅名標が立っています。

けんぼうそう

〈愛のまち剣舞箏保存会について〉



江戸時代から続く郷土民芸ハタ揚げは、桃の節句の時季に行われていました。昭和32年の大水害により途切れていましたが、昭和49年に復活。子どもたちに大自然と風とに親んでもらおうと「今木場子ども会」でのハタづくりとハタ揚げ体験を行ったのが復活のきっかけでした。この時に幻の「剣舞箏」ハタが一躍有名となり、昭和51年に「愛のまち剣舞箏保存会」が立ち上がります。それ以来、全国の凧揚げ大会にも参加し受賞するなど活躍し、現在も春の風が吹くと、愛野駅下の田んぼで「愛のハタあげ大会」が続けられています。ちなみに、愛野小学校6年生は卒業記念として必ずハタを制作し、ハタ揚げ大会に参加。文化の継承が続いています。



旧愛津村庄屋深浦家跡に残る立派な石垣。

伊能忠敬が測量に訪れた際、愛津村（現・愛野町）の庄屋・深浦九郎左衛門宅に宿泊したと記録が残っています。

一本松古墳などの古代遺跡もあり、古くから人が住み着いていた豊かな土地であることが分かります。



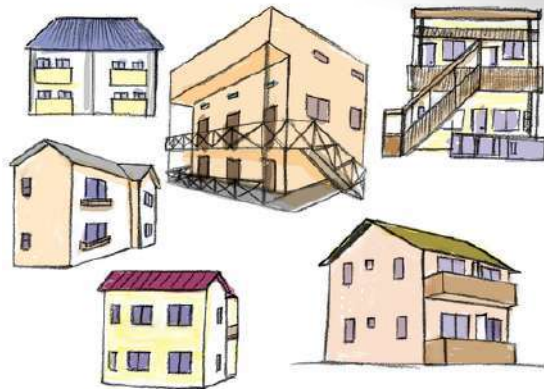
こんもりとした丘のように見える一本松古墳。



赤い尖塔が美しいカトリック愛野教会。

キリシタン関連の歴史があり、赤い尖塔を持ったカトリック愛野教会が小高い丘に建っています。

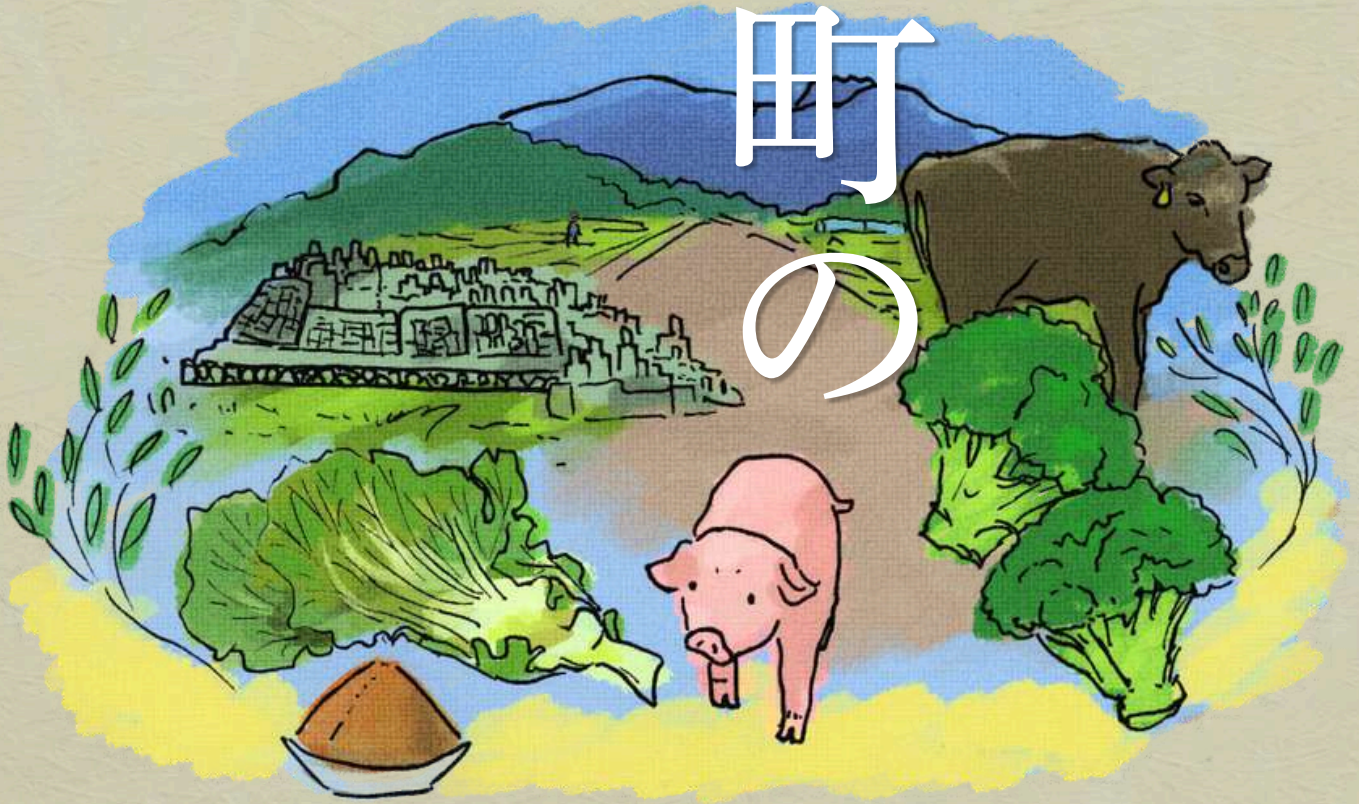
愛野には若い世代が住みやすいアパートが多く建ち並んでいます。





旧町時代の町章

誇り 吾妻町の



食と歴史

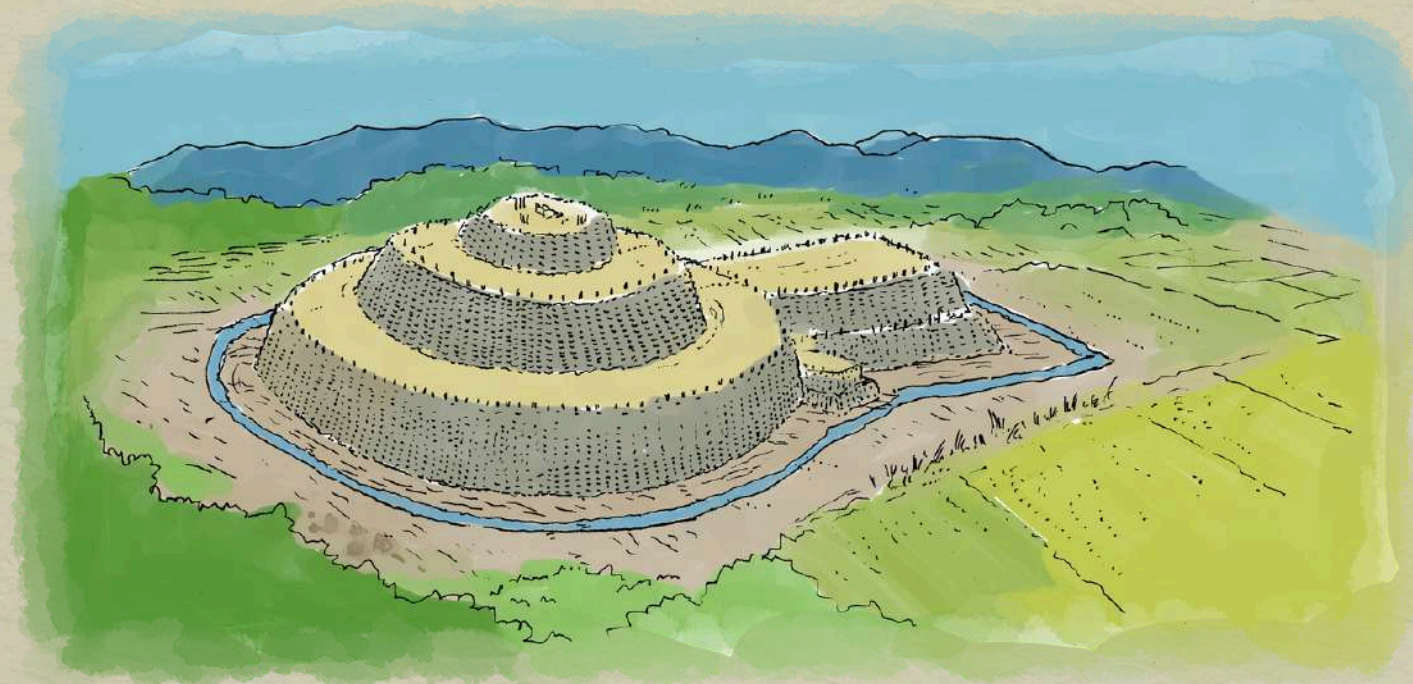
古墳にみる肥沃な大地

食

人の手と想いがつないだ伝統野菜

雲仙火山の恵みを受けた肥沃な大地が広がり、牛や豚など畜産が盛んに行われている地域です。じゃがいもやブロッコリーといった野菜の生産も盛んで、なかでも「雲仙こぶ高菜」は雲仙市の伝統野菜として、種が守り続けられています。

古墳に見る 肥沃な大地



イメージ図

大和時代からつづく農業の重要地

吾妻町には20を超える古墳があったと、吾妻町史には分布図が描かれています。その中でも「守山大塚古墳(もりやまおおつかこふん)」は、島原半島唯一の現存する前方後円墳であり、4世紀前半の古墳時代前期に築造されたことが発掘調査により判明されました。4世紀前半といえば、ヤマト王権が各地へ勢力を広げていた大和時代初頭。この時期にこれほどの前方後円墳が築かれたということは、島原半島が政治的・経済的に重要な地域であったことを示しています。その背景には、豊かな農業生産力があったと考えられています。

※参考資料／雲仙市教委編2025『守山大塚古墳Ⅱ』



守山大塚古墳を上空から見た写真（右奥が前方部 後には田内川（たないがわ）が流れています）

吾妻町の一角に遺されている「守山大塚古墳」は、離島を除く長崎県内で最大級の規模を誇る古墳です。後円部の直径は約50メートル、全長は約70メートルを測り、後円部中央の高さは約8メートル。田内川が形成した河岸段丘の上に築造され、現在は墳丘上に墓地が営まれています。前方後円墳の形状をそのままに、現代の墓石が建ち並ぶ独特の景観に驚かされます。

肥沃な土壌と便利な立地で交易が盛んに

雲仙岳の火山がもたらした肥沃な土壌と温暖な気候により、稲作が盛んに行われ、安定した収穫が有力豪族を生み出したと考えられます。また海に近く、船着場（津）から生産物の輸送も可能だったはず。それは交易や権力基盤の強化につながり、その象徴として巨大な古墳や遺跡が築かれたと考えられています。



『まぼろしの邪馬台国』にも登場した守山大塚古墳

「守山大塚古墳」は、作家であり考古学にも造詣の深かった宮崎康平の著書『まぼろしの邪馬台国』でも紹介され、古代史研究や邪馬台国論との関わりの中で注目を集めてきました。この古墳は、島原半島が大和時代以来、農業とともに発展してきた歴史の確かな証人であり、古代と現代の暮らしが交差する象徴的な存在になっています。

人の手と 想いが つないだ 伝統野菜



雲仙こぶ高菜ストーリー

伝統的な食文化や食材を守る世界的な団体「スローフード協会」において、消えそうな伝統食材を登録・支援する「味の箱舟」に、日本で初めて登録されたのが「雲仙こぶ高菜」です。雲仙こぶ高菜は雲仙市の在来種野菜のひとつで、有機栽培により原種を守りながら環境にやさしい生産が行われています。

消えて無くなりそうだった雲仙こぶ高菜を復活させたのは、種から野菜を育て続けている岩崎政利さん。小さな種屋さんから奇跡的に岩崎さんの手に渡り、今では世代を超えて「雲仙こぶ高菜」が地域に根付いています。また料理家の馬場節枝さんの手によっておいしい料理が作られ、今では雲仙市に欠かせない伝統野菜になっています。



種を守り続ける岩崎政利さん

甘味があって、シャキシャキとした食感がおいしい“雲仙こぶ高菜”。12月～3月が旬の雲仙の伝統野菜で、茎に大きな“コブ”があるのが最大の特徴です。

そもそも雲仙こぶ高菜は、種苗店を営んでいた峰真直さんが1947年に中国から持ち帰り、雲仙の風土や食文化に合うように改良、栽培したのが始まりです。そのおいしさが評判を呼んで一時は全国に普及したものの、交雑しやすく収量が少ないこと、高菜漬けを作る際にコブが邪魔だと敬遠されたことなどから次第に衰退。絶滅したかに思われました。

しかし2002年、自家採種で有機野菜を育てている農家・岩崎政利さんが自分の畑に雲仙こぶ高菜が自生しているのを発見。原種を探し出し、地元の生産者や農産加工組合、行政などに呼びかけて「雲仙こぶ高菜再生プロジェクト」を結成しました。雲仙こぶ高菜復活への取り組みは高く評価され、2005年には食の世界遺産と呼ばれる「味の箱船」計画（国際NGOスローフード協会主宰）に日本で初登録。その3年後には最高位の「プレシディオ」に選ばれました。

味を守り続ける馬場節枝さん

岩崎さんが育てた雲仙こぶ高菜を、まんじゅうや巻き寿司、白和えやチャーハンなど多彩な料理で、伝統野菜の味を守り続けています。



吾妻町の小高い丘にある岩崎さんの畑。



夏～秋、伝統野菜から種を採る作業が行われます。

吾妻町における有機農業の黎明

1980年代。吾妻町の田畑では、農薬を使った害虫防除が行われていました。それも害虫の逃げ場ができないよう、集団で行う一斉防除です。農薬に包まれた田畑の中には人間もいました。農薬をかぶりながらの作業。そして事故が起こります。30～40人もの農家が病院に搬送され1名が死亡。大事故でありながら報道はほぼ皆無でした。このことを機に10人ほどの農家が中心に農薬を使わない有機農業へと転換。岩崎政利さんもその一人。その後、有機農業事業協同組合「吾妻旬菜」が立ち上がるなど、吾妻町に有機農業の系譜が芽生えました。

雲仙こぶ高菜の絵本があります

雲仙市の伝統野菜「雲仙こぶ高菜」。その種を守り、伝え、育てる人々の想いを長崎大学経済学部の学生4人が絵本にしました。モデルは雲仙市吾妻町で50種類以上の在来種野菜を育てている岩崎政利さんと、伝統野菜をさまざまな料理でおいしさを伝えている馬場節枝さん。そして雲仙市立鶴田小学校3年生の皆さんには表紙の絵を描いていただきました。

雲仙市の小学校および図書館をはじめ、長崎県内の図書館に配布されています。ぜひ、手に取ってみて下さい。

企画制作／上地音々・川越佳梨・
佐藤里咲・村山咲七
(長崎大学経済学部 津留崎ゼミ)
絵／堀口治香 (一般社団法人 雲仙観光局)
表紙絵／雲仙市立鶴田小学校3年生の皆さん



おいしい 吾妻町



ブロッコリー



温暖な気候と肥沃な土壌が栽培に適し、産出額は長崎県内1位。10月～6月の8ヶ月間、旨味が詰まったブロッコリーを出荷しています。水分を多く含んだ早朝に収穫。低温流通を徹底し、出荷時の鮮度や品質を保ちます。



雲仙あかね豚

吾妻町内の2ヶ所の牧場で6000～7000頭ほどの豚を飼育。飼料の25%を自家栽培や地域で栽培された米にすることで、臭みがなく、オレイン酸が豊富な肉質に。同町の“雲仙どまんなか”で直売しています。



吾妻みそ

農協婦人部が立ち上げた加工組合で、昔ながらの丁寧な手作業でみそを作っています。無添加で材料は全て国産や長崎産のものを使用。麦みそ、米みそ、合わせみそ、減塩みその4種類があります。



穴ジャコ

有明海の干潟に生息する、体長10センチ程度の甲殻類。巣穴に入ってきたものを敵と思って攻撃する習性を利用し、筆などでおびき寄せて捕獲します。殻は柔らかくて甘味が強く、みそは濃厚。



およごし

白和えのことです。他にも「やまだごし」という伝統料理が親しまれています。





オリーブ畑

もともと蓮根畑だった沼で、耕作放棄地だった土地を開拓。自社農園でオリーブを無農薬栽培している“ナチュラルファーム”代表の稲田信忠さんは、地形的に緩かった土地を使い、見事なオリーブ畑を広げました。独自製法により苦味を抑え、ポリフェノールを豊富に含むオリーブリーフティや、エクストラバージンオリーブオイルなど商品を開発し販売しています。



吉本養蜂場

創業1928年、親子3代で営む養蜂場。生産から販売まで一貫して行い、非加熱、無添加、無加工の高品質のハチミツを製造しています。直営店のカフェスペースでは“巣みつソフトクリーム”が大好評。



長崎ネオクラシック クローバー

たはら 田原茶園

低農薬栽培のお茶の生産、販売を手がけています。八十八夜に茶葉の新芽だけを手摘み。味わい、コク、香りにとても優れています。その美味しさから長崎県認定農産物加工品「長崎四季畑」第1号に選ばれ、雲仙ブランドにも認定されています。

8層のチョコレートが魅力的な「長崎石畳ショコラ」が人気です。旬のフルーツを使った季節限定のケーキのほかに焼き菓子やシュークリームも販売。地元の学生はもちろん御祝い時など地元の方々に愛されているスイーツ店です。

吾妻町 自慢のスポット



牧場の里あづま

標高400mに広がる休養地で、約100頭の牛を放牧。庄巻の牧草が広がっています。遊具やバーベキュー場もあり“長崎の万里の長城”とも呼ばれる全長約480mの遊歩道は某テレビ局の珍百景でも紹介。ウエディングフォトの撮影場所にも人気。



吾妻岳

千々石断層の急斜面に位置する標高870mの山。距離は短いものの、急斜面と岩場が続く難所の登山コースとして知られています。山頂付近には吾妻観菩薩が祀られ、信仰の山として地元の人たちに親しまれています。



ひまわりめいろ

吾妻町馬場名にある広大な畑は、夏になると“ひまわりめいろ”になり、子どもたちの遊び場に。



守山城址公園

守山一族終焉之碑がある公園。町を見下ろす高台にあり、夕陽が美しく人気のデートスポット。



山田城址公園

室町時代後期に、当時の領主であった山田一族の居住となった城跡。展望台など憩いの場所に。



吾妻体育館

バスケットボールや剣道、卓球などたくさんスポーツが楽しめる施設で、町民に活用されています。

STUDIO ROLY POLY



島原半島をダンスで盛り上げたいとダンス講師macciが運営するスタジオ「ローリーポリー」。地元の資源を活かす創作ダンスや、愛野町の伝統祭り「浮立」を復活させるプロジェクトも企画しています。

吾妻町の豆知識 〈方言コラム〉

一聞すると同じに聞こえる方言も、場所場所によって少しずつ異なっています。島原半島内でも小浜町（雲仙市）や深江町（島原市）を横に結ぶ線をもって北部語と南部語とに二大別することができるそう。これには島原・天草一揆が大きく関わっています。有明ベイサイドエリアを含む北部は一揆に参加しなかったエリア。南部は一揆方に参加し、乱の後に新たに入植してきた子孫が多く住んでいるエリアです。わかりやすい特徴の一つとして時折例えに挙げられるのが、「ai」音が北部では「えー」に、南部では「やー」に転嫁すること。「蠅が灰の中に入った」を北部では「へーん へーんなげ へーった」と言い、南部では「ひゃーん ひゃーんなきや ひゃーった」と言い表します。

また、有明ベイサイドエリアは島原市よりも諫早市や佐賀県に近いので、半島の東側とは少し違う語尾が聞かれます。純粋な島原弁というよりは、諫早弁と島原弁の中間地

点のような言葉遣いになるのです。例えば、「とても」を表現する際、島原市内では「やっちゃ」や「たいぎゃ（大概の意）」が多用されますが、有明ベイサイドエリアでは「がぼ（佐賀弁）」や「いじ（非常に、を意味する長崎弁）」を用いることが多くなります。





旧町時代の町章

誇り 瑞穂町の



歴史

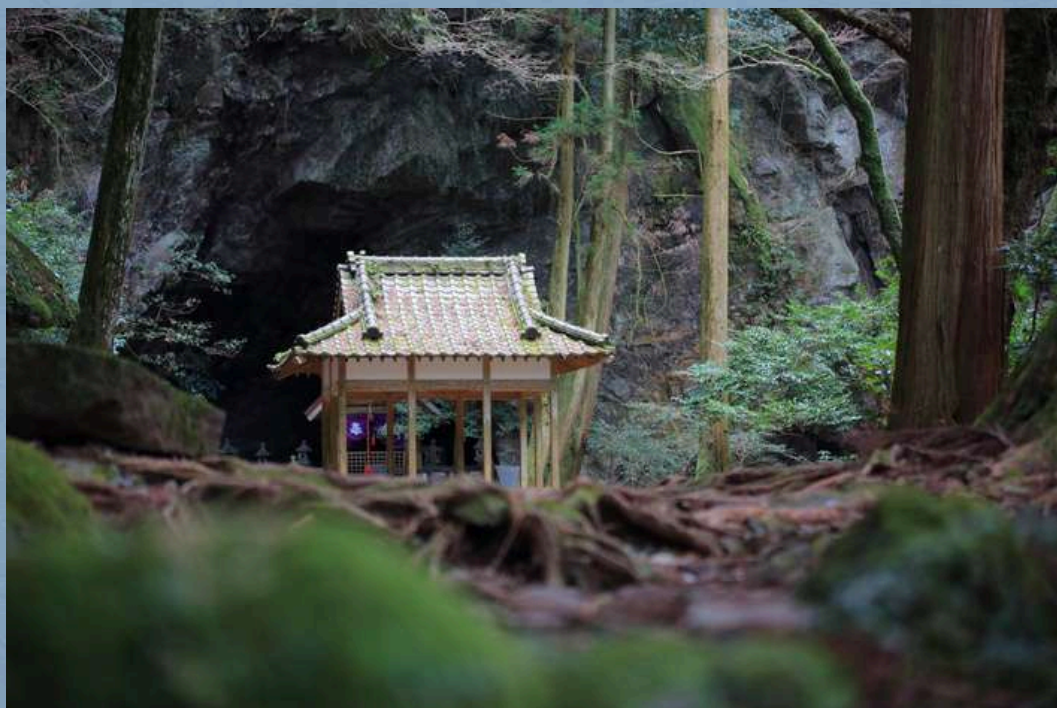
西郷川の源流 岩戸神社

食

大地に根差した農産物・海産物

瑞穂町は火山によって研ぎ澄まされた大いなる川と米の恵みが今に続き、その豊作を願い感謝する祭りが多く存在しています。有明海に目を向けると山からミネラルを取り込んだ「瑞穂牡蠣」や「春待ちアサリ」が育まれ、土地の豊かさによって生かされていることが分かります。

西郷川の源流 岩戸神社



心地良い水の音 澄んだ空気 自然崇拜の信仰の場

雲仙市瑞穂町の山深い森に鎮座する岩戸神社(いわどじんじゃ)は、創建年代が詳しく伝わっていない古社ですが、古くから地元で「岩戸さん」と親しまれてきました。社の奥にある巨大な洞窟がご神体とされ、ここに縄文時代の人々が住んでいたと伝わる遺構があることから、古代から信仰の対象だったとも考えられています。洞窟と古い森の雰囲気そのまま神聖視され、樹齢300年以上の杉や檜に囲まれた境内は、自然崇拜と融合した原始的な信仰の場としての歴史を伝えています。

命の源流を感じるパワースポット

境内周辺には清らかな水が湧き出る場所があり、瑞穂町を流れる西郷川の源流の一つとされています。豊かな森に育まれた水は、古くから地域の田畑を潤し、人々の暮らしを支えてきました。岩・山・水という自然の三要素が揃うこの地は、まさに生命の源流を感じさせる空間です。近年は“力が宿る場所”として知られ、厳かな森と澄んだ水音に包まれながら、静かに手を合わせる参拝者が絶えません。

岩戸神社の魅力

本殿は高さ35メートル、幅15メートル、奥行き10メートルの大きな岩に守られるように鎮座。この洞窟は、縄文時代に住居として使われていたのではないかとされているそうです。本殿にまつられている「岩永姫命」は、岩のように堅固で永久不変を象徴する女神様。

西郷川の源流

本殿の西側には高さ40メートルの岩間から、ぽつりぽつりと雫がしたたり落ちる小さな滝つぼが。その奥にも2つの洞穴があり、水の神と山の神がそれぞれまつられています。この水は集落の田畑を豊かに潤す西郷川の基点。この清水を使った「岩戸米」は、幻のお米として人気があります。



《コラム》 ばくち穴について

「ばくち穴」

社殿を右下におりて、西側の洞穴の横から急斜面の雑木林を150mほど登ったところに石の崖があり、その左端部に入口が北向きの洞穴があります。その洞穴を古くからばくち穴と呼んでいます。近郷から博徒が集まり、隠れてばくちをしたからその名称がついたと言われています。古代住居の遺跡か、キリシタンの隠れ場所ではなかったかとも。



岩戸神社の 神秘的な空間で 開催される 岩戸こもればコンサート

岩戸神社で秋に開かれる「岩戸こもればコンサート」は、自然に囲まれた神秘的な空間で音楽を楽しむイベントです。巨木や苔むした岩壁を「天然のホール」として活かし、プロの演奏家や地元音楽団体がオカリナ、ギター、フルート、声楽など多彩な演奏を披露します。森の静寂と澄んだ空間の中で、観客は音楽と自然の調和を感じながら癒しのひとときを過ごすことができます。地元住民や音楽愛好家による実行委員会が主催し、地域の秋の風物詩として定着しています。



農



岩戸米

岩戸の清らかな湧水で育った甘くておいしい献上米。限られた棚田でしか作られておらず、大変貴重なため、“幻の米”とも呼ばれています。雲仙ブランドに認定。

大地に根差した農産物・海産物



西郷米

西郷川流域で作られる米。朝晩の気温差と、ミネラルを多く含んだ西郷川の水が甘い米を育みます。直売所“雲仙みずほの郷”などで入手可能。こちらも雲仙ブランドに認定。



雲仙つむら農園

茨城県で医療品などの研究者として働いていた津村義和さんとその家族が瑞穂町に移住し、開墾した農園。農業や化学肥料を使わない有機農法の露地栽培で、少量多品目の在来種の野菜を育てています。

ながたせいちゃ
長田製茶

標高50mほどの中山間地で“雲仙茶”を栽培。まろやかな味わいと鮮やかな色合いが特長。火山灰土壌に有機物をブレンドしたオリジナルの堆肥を用いて土づくりを行うなど、循環型の農業を目指しています。茶畑が広がる瑞穂町では、ほかにも布田製茶が知られています。

ベルガモット
雲仙シトラスファーム

イタリアが主産地で、アロマオイルにも使われるほど心地よい清香を持つ柑橘類。淵上桂樹さん、敏秀さん兄弟が国見町、瑞穂町の両町でベルガモットを栽培。ビールの原料に使われているほか、お茶の新商品も開発中。

よしざわのうえん
芳澤農園

芳澤幸雄・卓子ご夫婦が、雲仙岳の豊かな水にめぐまれた土地の特徴を生かし、自然界の循環を利用しながら肥料、農薬を一切使用しない野菜作りを目指しています。

海



瑞穂牡蠣

瑞穂町で養殖されるブランド牡蠣。身が大きく、塩味は控えめで、濃厚な旨味が特長。2007年には“雲仙ブランド”に認定。諫早湾漁協瑞穂直売所に牡蠣の自動販売機が設置され、時間外でも購入することができます。定番の焼きガキやカキフライもいいですが、「カキの温泉蒸し」は雲仙市ならではの食べ方です。旨味が濃縮され、高度なプリプリ感に驚かされます。まさに瑞穂町の自慢の味です。

おいしい 瑞穂町

郷土料理

瑞穂町には老舗料理店があり、多比良ガネ（ワタリガニ）をはじめとする地元の新鮮な魚介、旬の野菜を使った料理を味わうことができます。

スリランカカレー

古部駅前にある、長田製茶が経営するカフェ“ぼっぼや茶葉”で提供される人気メニュー。たっぷりの有機野菜を使った副菜に、本場のスパイスを使って作るカレーは一度食べると忘れられない味。



懐かしい味が 今も愛され続ける

ぼんこ



卵、イースト菌、小麦粉、砂糖などを合わせて膨らませて作る瑞穂町の郷土料理。自家製の小麦粉に甘酒を入れて膨らまし、それをセイロで蒸して、ショイノミ(醤油の実)や砂糖をつけて食べていたそうです。サツマイモがとれると、輪切りにしたものに、ぼんこのタネをぶっつけるようにしてかぶせて蒸した「うっつけぼんこ」もあったよう。呼び名は諸説ありますが、お盆の時期に作られていたことから、この名が付いたともいわれています。

どんだへ



瑞穂の郷土料理。茹でた餅と蒸したサツマイモをすり鉢で丁寧について丸め、きな粉をまぶした甘いおやつ。他所でも“芋もち”“ねったぼ”“ねりくり”といった名称で同様の食べ物があります。



丸ぼうろ

創業100年の雪屋菓子舗で販売している看板商品。二代目が南蛮伝来の地・佐賀で修行して製法を伝承。代々変わらぬ味を守り続けています。サクッと軽やかな食感で口溶けが良く、何個でも食べられそうな味わい。



雪屋菓子舗

チョコレート饅頭

雪屋菓子舗の冬季（10～5月）限定商品。白餡をビターなココア生地で包み、チョコレートでコーティング。和洋の絶妙なコラボレーションに驚きます。市外からわざわざ買い求めにくる人も少なくありません。

瑞穂町 自慢のスポット



雲仙市子どもの遊び・
学び場いこいこ



ふれあい会館



ふれあい広場



みずほすこやかランド

宿泊施設、研究室、調理実習室を持つ「ふれあい会館」ほか、テニスコートや多目的グラウンド、25mプール、公衆温泉まで備えた複合施設です。全天候型の子どもの遊び場「雲仙市子どもの遊び・学び場いこいこ」も令和8年7月5日にオープン。また、施設は有明海に面しており、夕日の美しさは抜群です。



みずほ温泉千年の湯

「みずほすこやかランド」内にある温泉施設。1000メートル掘って湧き出したナトリウム塩化物温泉で、お肌がすべすべ、ツヤツヤになると評判。館内には休憩処もあり、露天風呂から見える有明海の景色は圧巻。身体を動かしたあとは、温泉に入って帰ることができ、町民にとっても嬉しい施設。



こべえき 古部駅

線路が最も海に近い場所として知られる、島原鉄道の無人駅。レトロで素朴な佇まいがSNS映えすると評判。清涼飲料水のコマーシャルのロケ地として選ばれたことでも大きな話題になりました。



瑞穂町の豆知識

小さな村にふたつの藩が存在する謎

現在のみずほすこやかランド周辺にある「伊古（いこ）地区（旧伊古村）」は、江戸時代、佐賀藩と島原藩の人々が入り混じって生活していた稀有な場所として知られています。瑞穂町史談会の方による研究報告書を紹介します。

瑞穂町史談会 瀬戸山正博氏 著

自費出版された報告書『境界アルニアラズ』には、秀吉が出した朱印状の謎や伊古村の奇妙な入り交じりについて詳しく紹介されています。

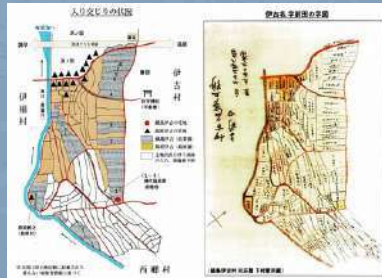
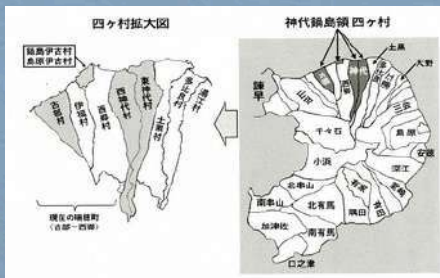


戦国時代の戦いに翻弄された境界のない小さな村

龍造寺と大友、島津の3強が九州を治めていた戦国時代、勢力を増していた龍造寺を打つべく、島津と手を組んだ島原半島の有馬が、龍造寺を討った「沖田暉（おきたなわて）」の戦いは、その後の島原半島を大きく動かします。龍造寺の後を継いだ鍋島直茂は、豊臣秀吉側に付き、九州征伐後に土地の所有でもめます。秀吉の朱印状により鍋島直茂に安堵された四力村は有馬との難しい交渉の結果、極めて小さな伊古村に鍋島領と有馬領が入り交じるという特異な土地となります。

江戸時代、一つの村に複数の領主がいるかたちを相給（あいきゅう）と呼びますが、伊古村の相給は大名級の佐賀藩と島原藩が領主という、とても珍しいものでした。島原藩領は約91石、佐賀藩領は200石余～296石余とされ、上伊古（佐賀）・下伊古（島原）とも呼ばれました。農業が中心で、米・大豆のほか、塩焼きや織物、牡蠣の生産も行われ、海に面した地の利を生かして輸送も盛んでした。

明治4年の廃藩置県後、両領はそれぞれ島原県・佐賀県などを経て長崎県に編入され、やがて合併して伊古村となります。島原方言と佐賀方言が併存するなど、藩の違いは生活文化にも影響を残しました。明治期には学校も開かれ、人口約480人の農漁村として歩み、明治22年の町村制施行で西郷村の一部となり、現在に続いています。



沖田暉の戦いのあと、有馬領の島原半島に、4つの神代鍋島領が置かれます。そのうちの一つである「伊古村」に関しては、さらに「鍋島伊古村」と「島原伊古村」に分かれ、方言や暮らしぶりも違っていったそうです。

狭いエリアの中で、佐賀藩と有馬藩の領地が飛び地のように混在しているのが分かります。灰色部分が鍋島伊古、柿色部分が島原伊古の領地です。

現在の伊古地区（旧伊古村）。旧土地台帳をもとに入り交じりの様子が示されています。▲が島原伊古、●が鍋島伊古の宅地です。



原口 要

西郷村（現瑞穂町西郷地区）に生まれた原口要は、日本で初めて工学博士に選ばれた5人の内の一人。殷洪の鉄道技術者として活躍しました。



下村 修

緑色蛍光タンパク質（GFP）を発見し、その応用研究の功績で2008年にノーベル化学賞を受賞した下村修博士。父親は瑞穂町で代々庄屋を務めた名家。



西郷駅の近くには、江戸時代に島原藩と佐賀藩の境界を示すための石柱（藩境石）が残っています。

昭和32年の諫早大水害では、西郷地区で24時間1109ミリを記録し、日本最大規模の豪雨となりました。



あったらいいな

体験 & イベント



有明ベイサイドエリアを訪れた人々に今後体験してほしい新しい体験や、来訪者と一緒にやりたいイベントなど、いろんなアイデアを集めました。



モーモーフェスティバルや観月祭の復活。名物ミル耐、牛半頭丸焼き、乳しぼり体験。

食

農家さんでの収穫体験 & その場で試食できるツアー。



愛野の歴史ある関所をプラタモリ風に案内するツアー。

歴史

小学校での郷土の歴史を学ぶ教材を作る。地元小学校の副読本にしたい。



岩戸神社観光ガイド→大型バスが来るようなツアーではなく、本当の良さを知ってもらいたい。



火山の恵みが伝わるような山の風景と海の風景を見る旅。

海側から吾妻岳など山を見るツアー。



自転車ツアー。

その他

海を感じる鉄道めぐり。

干拓めぐり。






地元ツアーのガイド本を作り、それを使ったツアー。



有明ベイサイドエリア(愛野町・吾妻町・瑞穂町)の インタープリテーション・メディア・プログラム

| | メディア・プログラム | 概要 | 担当組織(担当者) |
|----|------------|--|-------------|
| 書籍 | 愛野町郷土誌 | <ul style="list-style-type: none"> 昔からの愛野の出来事を知ることができる貴重な資料 出版者 愛野町 出版年月日 1983.4 | 教育委員会 生涯学習課 |
| | 吾妻町史 | <ul style="list-style-type: none"> 昔からの吾妻の出来事を知ることができる貴重な資料 出版者 吾妻町 出版年月日 1983.11 | 教育委員会 生涯学習課 |
| | 瑞穂町誌 | <ul style="list-style-type: none"> 昔からの瑞穂の出来事を知ることができる貴重な資料 出版者 瑞穂町 出版年月日 1988 | 教育委員会 生涯学習課 |

有明ベイサイドエリア(愛野町・吾妻町・瑞穂町)の インタープリテーション・メディア・プログラム

| | メディア・プログラム | 概要 | 担当組織(担当者) |
|--------|-------------------------|--|--|
| 体験 | 雲仙ジオサイクリング E-bikeツアー | 電動アシスト付き自転車E-bikeで岩戸神社下の清流公園から有明海へ向かう約10kmのツアー。火山がもたらす豊かな大地をサイクリングしながら、生産者との出会いや、水と人々の暮らしのつながりを感じます。 | 雲仙観光局 |
| ガイドマップ | 島原半島旅びより | 温泉と美味しいものを中心に、島原半島の観光情報をまとめた冊子 | 一般社団法人 島原半島観光 ジオパーク協議会 |
| | 雲仙市ガイドブック | 雲仙市全域を網羅的に紹介したパンフレット | 雲仙観光局 |
| | FindUNZEN冊子 | 市内観光の魅力を写真中心にまとめた冊子 | 雲仙観光局 |
| | 雲仙ブランド冊子 | 雲仙市の物産認定「雲仙ブランド」の逸品をまとめたパンフレット | 雲仙市観光物産課 |
| WEBサイト | 雲仙市公式ホームページ | https://www.city.unzen.nagasaki.jp/ | 雲仙市  |
| | 雲仙観光情報サイトFindUNZEN | https://www.unzen.org/ | 雲仙観光局  |
| | 雲仙観光局公式ホームページ | https://unzen-dmo.com/ | 雲仙観光局  |
| | 雲仙ポータル | https://www.unzen-portal.jp/ | 雲仙観光局  |
| | 雲仙市商工会 | https://www.e-unzen.jp/index.html | 雲仙市商工会  |

観光向けデータで見る雲仙市

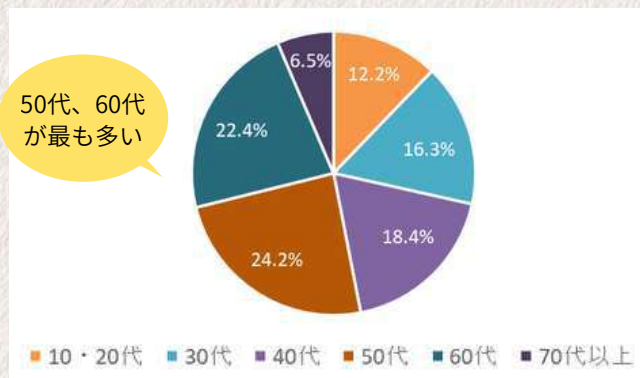
雲仙市 来訪者アンケート 3年間集計 (R5~R7年度)

雲仙観光局では、本市の来訪者の動向をリアルタイムで把握するために、年間を通して来訪者アンケートを実施しています。ここでは、直近3年間のデータも合わせて様々な集計結果をお伝えいたします。

出所：雲仙観光局訪問客アンケート R5(n=853) R6(n=1,341) R7(n=1,194)

3月号グラフデータ集・各月マーケティングレポート

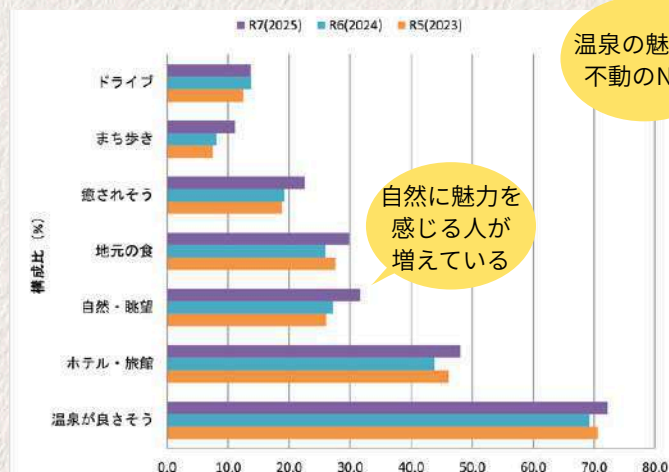
・来訪者の年代構成 R7(2025)



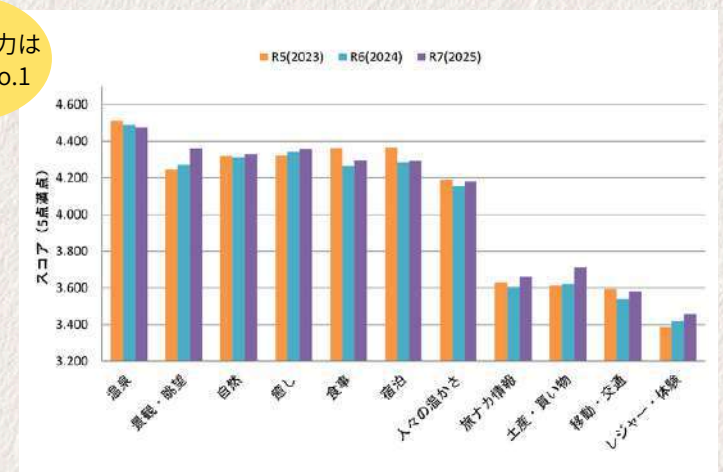
・来訪者の住まい R7(2025)



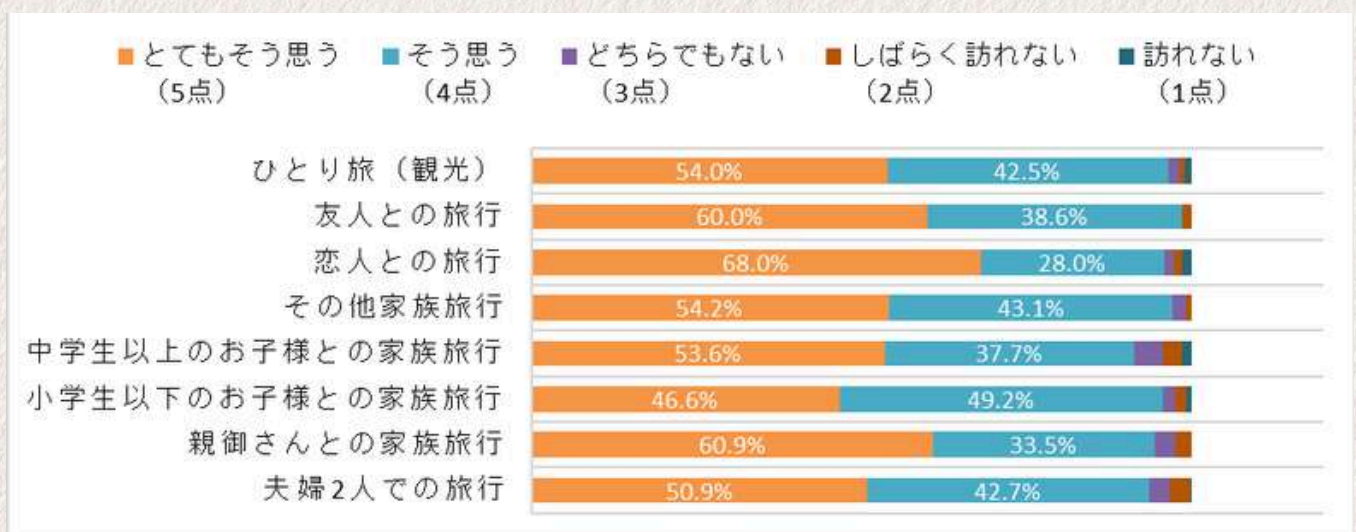
・旅先に選んだきっかけ



・旅ナカ満足度



・旅スタイル別再来訪意欲 R7(2025)



雲仙市が強い層、弱い層（課題や攻略方法含め）

| ◎ 雲仙市が強い層 | | | | | |
|-----------------|--|--|--|--|---------------------------------|
| 年代 | 主な特徴 | 情報収集方法 | 楽しみ方 | 課題 | 課題解決案 |
| 50代 | 夫婦・友人旅行中心。消費単価高く平日・閑散期も動ける。温泉・宿重視。リピーター傾向強い。 | 旅行予約サイト 旅行雑誌 ガイドブック 口コミ 旅行代理店 テレビ | 温泉・露天風呂宿での食事 のんびりまち歩き ドライブ ツーリング | 新規体験への誘引が弱い。 「温泉」止まりで体験消費が拡大しにくい | 消費単価維持向上 リピート促進 体験付帯プラン造成 |
| 60代 | 夫婦・友人・団体旅行。歴史・文化・温泉への関心高い。旅行経験豊富で比較眼あり。滞在長め。 | 旅行代理店 パンフレット 旅行雑誌 家族友人の口コミ テレビ 新聞 | 温泉・露天風呂宿でのんびり 名所、旧跡観光 地元グルメ 景観鑑賞 | 代理店経由のため「夏の選択肢」認知低（九州=暑い先入観） | 夏季の来訪促進 -5℃避暑地の認知浸透 |
| 40代 | 家族旅行・夫婦・友人グループ。子連れ率高い。体験重視傾向が強まりつつある。 | 旅行予約サイト 口コミサイト SNS | 温泉宿でのんびり 地元グルメ まち歩き 美しい自然 名所旧跡 | 子ども向けコンテンツ・体験プログラムが限定的。「家族で遊べる場所」の認知不足 | 家族向け体験商品造成 子ども満足度向上 |
| △ 弱い狙いたい層・その他の層 | | | | | |
| 年代 | 主な特徴 | 情報収集方法 | 楽しみ方 | 課題 | 攻略方針・KPI |
| 30代 | 夫婦・友人・恋人。感度高く体験消費意欲強い。SNS発信力高く口コミ波及効果大。 | Instagram X YouTube 口コミサイト 旅行予約サイト インフルエンサー | 温泉・グルメ・まち歩き・体験（E-Bike・アウトドア等）・フォトジェニックスポット | 「温泉だけ」の印象を打破できていない。体験コンテンツ・夜コンテンツが不足か | フォトジェニックスポット整備・夜コンテンツ開発・体験商品造成 |
| 10・20代 | 一人旅・友人・恋人。価格感度高いが体験にはお金を払う。SNSでの発見・シェアが行動動機。 | Instagram TikTok YouTube インフルエンサー ハッシュタグ検索 | フォトジェニック温泉・个性的カフェ・アウトドア体験・夜景・ライトアップ | 来訪単価が低い。コスト対効果の課題。現状は認知・来訪ともに限定的 | ファン化優先 将来の主力層化 SNS運用 |
| 70代以上 | 団体旅行・夫婦。旅行会社パッケージ経由多い。ゆったりペース。満足後はリピートしやすい。 | 旅行会社窓口・パンフレット・電話・テレビ・家族からの推薦 | 温泉・宿での食事・観光バス名所巡り・歴史、文化施設見学 | バリアフリー対応・公共交通不足。一部コンテンツへのアクセス困難 | 旅行代理店連携強化・バリアフリー情報整備・リピート促進 |
| アドベンチャー層 | 温泉街を素通りしがちだが体験消費意欲・単価ポテンシャルが高い。 | 登山専門サイト アウトドア系SNS インフルエンサー（山岳・アウトドア系） | 雲仙岳トレッキング・E-Bike・地熱体験・ジオパークガイドツアー | 温泉街への滞在誘引が課題。「登山して帰る」動線が固定化 | アドベンチャーツーリズム商品化・インタープリター育成 |

>> 索引

- 【あ行】**
- 相給 42
 - 愛津新田 12
 - 愛津村 12、21、26、27
 - 愛野駅 12、25、26
 - 愛野町 1、2、7、12、16、18、
20、23、25、26、27、35
 - 愛野展望所 25
 - 愛のハタ揚げ大会 12
 - 愛のまち剣舞箏保存会 18、26
 - 愛のまち夢未来センター 12
 - あい娘酒造 16
 - 味の箱船 31、32
 - 吾妻観音菩薩 35
 - 吾妻体育館 35
 - 吾妻岳 16、35
 - 吾妻町 1、2、7、9、14、16、18、
28、29、30、32、33、35
 - 吾妻町夏祭り 19
 - 吾妻みそ 33
 - アヅマルシェ 19
 - アサリ 8、15
 - 穴ジャコ 33
 - 有明海 1、4、8、11、12、14、16、17、20、33、41
 - 有明ベイサイドエリア 1、5、7、47
 - 有馬 42
 - 伊古村 7、42
 - 諫早湾 8、11
 - 諫早湾干拓事業 9
 - 諫早湾干拓堤防道路 9
 - 一本松古墳 27
 - 稲田信忠さん 34
 - 伊能忠敬 12、27
 - 伊福 18
 - 芋もち 40
 - 弥富寛一 13
 - 岩崎政利さん 31、32
 - 岩戸こもれびコンサート 19、38
 - 岩戸神社 7、16、19、36、37、38、43
 - 岩戸米 16、38、39
 - 岩永姫命 38
 - インタープリター 4、5
 - インタープリテーション 2、4、5、6
 - 植木元太郎 26
 - うっつけぼんこ 40
 - 雲仙あかね豚 33
 - 雲仙アヅマクロス 19
 - 雲仙きのこ本舗 24
 - 雲仙こぶ高菜 1、28、31、32
 - 温泉山満明寺 22
 - 雲仙市有明ベイサイドエリア
 - インタープリテーション全体計画 1、2、49
 - 雲仙市子どもの遊び・学び場いこいこ 41
 - 雲仙市産業まつり～特産まんぞく市～ 19
 - 雲仙シトラスファーム 39
 - 雲仙茶 39
 - 雲仙つむら農園 39
 - 雲仙鉄道 26
 - 雲仙どまんなか 33
 - 雲仙ブランド 19、34、39
 - 雲仙みずほの郷 39
 - 大崎明海さん 14
 - 大崎連 9、13、14
 - 大嶋 9
 - 大友 42
 - 沖田礫 42
 - 沖ノ島 9
 - 小浜鉄道 26
 - およごし 33
 - オリーブ 34
 - 温泉軽便鉄道 26
 - 温泉神社 12
 - 温泉鉄道 26
- 【か行】**
- 勝海舟 22
 - 川床 16
 - 干拓 1、11、12、14、20
 - 北目道 21、22
 - 木村光之助さん 18
 - 境界アルニアラズ 42
 - 古墳 7、28、29
 - 古部駅 40
 - 小牟田下新田 12
- 【さ行】**
- 西郷米 16、39
 - 西郷川 7、8、16、36、37、38、39
 - 在来種野菜 31
 - 佐賀藩 7
 - 坂本龍馬 22
 - 作願立て 15
 - さなぶり 15
 - 三軒茶屋 12、22
 - 島津 42
 - 島原街道 21、22
 - 島原鉄道 2
 - 島原藩 7
 - 下村修博士 42
 - じゃがいも 1、7、20、23
 - 新開 9、13



>> 索引

- | | | | |
|------------------|--------------|-------------|-------------------------------|
| 瑞宝太鼓 | 18 | 深浦九郎左衛門 | 27 |
| STUDIO ROLY POLY | 35 | 深浦家 | 12、22、27 |
| 相撲 | 18 | 布田製茶 | 39 |
| スリランカカレー | 40 | 浮立 | 18、35 |
| スローフード協会 | 31 | ふれ愛愛の夏まつり | 19 |
| 関所 | 1、7、20、21、22 | ブロッコリー | 1、28、33 |
| 関新田 | 12 | ベルガモット | 39 |
| 瀬戸山正博氏 | 42 | 牧場の里あづま | 35 |
| 泉水海 | 7、8、9、10 | ぽっぼや茶葉 | 40 |
| 前方後円墳 | 29、30 | ぼんこ | 40 |
| | | 本明川 | 8 |
| 【た行】 | | 【ま行】 | |
| 太陽卵 | 24 | まぼろしの邪馬台国 | 30 |
| タイラギ | 8 | 丸ぼうろ | 40 |
| 棚田 | 15 | みずほ温泉千年の湯 | 41 |
| 田原茶園 | 34 | 瑞穂牡蠣 | 1、16、36、37、39 |
| 千々石断層 | 35 | みずほすこやかランド | 19、41、42 |
| 千々石展望台 | 2 | 瑞穂町 | 1、2、7、16、18、36、37、39、40、41、42 |
| チョコレート饅頭 | 40 | みずほ夏まつり | 19 |
| 津村義和 | 39 | 三ツ島 | 9、14 |
| 伝統野菜 | 28、31、32 | 三ツ島干拓事業 | 9、12、13 |
| 土居口番所跡 | 21、22 | 峰真直さん | 32 |
| 殿様道 | 22 | 宮崎康平 | 30 |
| 屯宮祭 | 18 | 宮ノ下新田 | 12 |
| どんだへ | 40 | 宮本健太郎技師 | 23 |
| | | ミル耐 | 43 |
| 【な行】 | | ムツゴロウ | 8 |
| 長崎石畳ショコラ | 34 | モーモーフェスティバル | 43 |
| 長崎カステラランド | 24 | 守山大塚古墳 | 29、30 |
| 長崎県農業試験場愛野試験地 | 23 | 守山城址公園 | 35 |
| 長崎四季畑 | 34 | | |
| 長崎ネオクラシッククローバー | 34 | 【や行】 | |
| 長田製茶 | 39、40 | 焼肉牛花 | 24 |
| 中ノ島 | 9 | 山田川 | 8、16 |
| ナチュラルファーマーミング | 34 | 山田干拓 | 9、14 |
| 鍋島 | 42 | 山田城址公園 | 35 |
| ねったぼ | 40 | 山田村 | 13、14 |
| ねりくり | 40 | 雪屋菓子舗 | 40 |
| 農林技術開発開発センター | 23 | 芳澤農園 | 39 |
| | | 吉本養蜂場 | 34 |
| 【は行】 | | 【ら行】 | |
| ばくち穴 | 38 | 龍造寺 | 42 |
| ハタ揚げ | 18 | ロマンチストの聖地 | 25 |
| 鼻穿石 | 25 | | |
| 馬場節枝さん | 31、32 | 【わ行】 | |
| 原口要 | 42 | ワタリガニ | 15、40 |
| 原口番所跡 | 21、22 | | |
| 春待ちアサリ | 16、36 | | |
| 藩境石 | 21、42 | | |
| 日吉神社 | 12、22 | | |
| ひまわりめいろ | 35 | | |

あしがき

約30万年という悠久の時間が刻んだ山と川の大地。

その先に広がる干潟と海。

水とともに歩んできた人々の営み。

有明ベイサイドエリアには、豊かな山河によって育まれてきた物語があります。

観光地というよりも、「雲仙市の食」を担うこのエリアには、

種から野菜を育み、露地栽培や有機農法にこだわる生産者たちが存在します。

また、豊かな海の恵みによって、雲仙市の新しいブランドも誕生しています。

その質の高い食材は、全国的美食家やレストランのシェフたちも注目しています。

合計6回行われた「有明ベイサイドエリア」のワークショップを通じて

皆さんで出し合った地元の「誇り」と「自慢」は、

外の人からの目線で見れば、その町ならではの一面であり、

ほかにはない、大切な「価値」でもあります。

今後、この「誇り」と「自慢」をより力強いものにしていくために

この計画書がお役に立ててばと思っています。

もっと、自分たちの町のことを学んみる。

もっと、自分たちのことを誇ってみる。

そして、私たちが生きているこの場所を守り、未来へとつなげていく。

有明ベイサイドエリアインタープリテーション全体計画書が

この土地の「新たな価値」を見出すきっかけになれば嬉しいです。

本計画は宿泊施設や飲食店、観光関連施設など、観光に関わるすべてのスタッフ、地域住民、観光局の職員など、有明ベイサイド地区と関わるすべての人々に向けたものです。地域の皆様にもご案内の際、参考にしていただければ幸いです。

本計画は今後もレベルアップを図る予定です。情報に過不足があるところや認識の違いなど、お気づきの点等がある場合は下記までご連絡下さい。

雲仙観光局（0957-73-3639、contact@unzen-dmo.com）

改定の際に修正させていただきたいと思えます。

有明ベイサイドエリアインタープリテーション全体計画 策定WG 参加者名簿

(五十音順、敬称略)



荒木正和/秋山勝也/井川理恵子/市来勇人/井上あすか/
井上あや/稲田信忠/岩崎政利/岩永央子/浦由架/
永川慎吾/大石初藤/大宮広美/大庭英郎/奥野隆/奥野勝/
鬼塚新二/小田英夫/柿田秋子/柿田耕平/樫澤公昭/
加藤奈保子/金澤有華/上地音々/川上耀平/川越佳梨/
岸川奈桜里/北田喬寛/衣川日菜実/木村健太/黒原廉/
幸田龍星/古賀悠生/相良淳郎/坂井恵子/酒井豊明/
作山美穂/佐藤久美子/佐藤克典/佐藤里咲/柴崎孝光/
下楠園康司/下高敏彰/白濱えりか/瀬戸正志/
瀬戸山正博/副島亜弥/高嶺亜由美/田路俊章/田中亚希/
田中正善/田原哲一/津留崎和義/手島晋一郎/富石太/
内藤貴子/中嶋純一郎/西岡誠/根岸弥佳/永田芳郎/
馬場節枝/馬場宗一/廣瀬昌俊/廣瀬竜太/藤下盟子/
船木健一/堀口治香/前田謙輔/益田克巳/益田利夫/
益田善之/macci/町田康輔/松坂良太/松本真美/
宮崎末信/宮崎豊美/宮原祐二/宮本恵美子/宮本直樹/
村山咲七/森本拓/矢坂須美江/山崎和幸/山下浩一/
山村洋平/吉田和夫/吉田利夫/力野和久/渡邊恵美/
吾妻中学校3年生の皆様



参加者大募集!!

有明ベイサイドを もっと好きになるワーキング

【定例会】 【開催日】

新北条駅西口の緑地は、
有明ベイサイドエリアインタープリテーション全体計画の策定に繋がります!

インタープリテーションとは何ぞ?
その地域の自然や文化を楽しく伝えるための活動です。
楽しみながら、地域の自然や文化を学ぶことができます。
また、地域住民と交流し、絆を深めることができます。
ぜひ参加してください。

| 開催日時 | 開催場所 | 参加費 | 定員 |
|----------------------------|--------------------|-----|-----|
| 2023年10月14日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年10月21日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年10月28日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年11月4日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年11月11日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年11月18日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年11月25日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年12月2日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年12月9日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |
| 2023年12月16日(土) 10:00~12:00 | 有明ベイサイドエリア(新北条駅西口) | 無料 | 20名 |

お問い合わせ先: 有明ベイサイドエリアインタープリテーション事務局
〒108-8501 東京都港区赤坂1-1-1 赤坂サカエビル5F
TEL: 03-5561-1111 FAX: 03-5561-1112
E-MAIL: info@azuma-interpretation.com





有明ベイサイドエリアをもっと好きになるSTORY

雲仙市有明ベイサイドエリアインタープリテーション全体計画

発行：一般社団法人雲仙観光局
〒852-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙320
TEL 0957-73-3639

発行日：2026年6月

協力：有明ベイサイドエリアインタープリテーション全体計画策定WG参加者の皆様

進行委託：日本インタープリテーション協会理事 川嶋直

制作：株式会社スタジオライズ

イラスト：堀口治香

デザイン：Soup (山中初仁)

この冊子を作る過程は
こちらの記事よりご覧いただけます
雲仙ポータル



■参考資料

愛野町郷土誌
吾妻町史
郷土史「農業土木を支えてきた人々 大崎連」
瑞穂町誌
瑞穂町の歴史・文化(4話)/瑞穂町文化協会
雲仙市ホームページ
雲仙市教委編2025『守山大塚古墳II』
長崎県WEBサイト「有明海・諫早湾の干拓とその歴史」







F i n d
UNZEN